

読者ページ

ヨコハマから横浜へ

教育委員会 打越和子

横浜に住むようになってもうすぐ二年になります。ここに移る前には、「最もナウい都会人への転身」と冷やかされ、また羨ましがられたものです。最近になって街づくりを着々とすすめる千葉、埼玉。それを横目に私の出身地茨城は、半ばあきらめているのか、「イバラギ」のイメージそのままにどっかりと居すわっているようです。

これと対比的に、横浜には、洗練された街というイメージが強くあります。異国情緒の街並み、最先端のファッション……地方の私たちには、歌のタイトルなどで印象づけられたせいか「ヨコハマ」という文字に独特

の響きを感じられました。そして、そういう雰囲気は、山下公園、元町などで確かに味わうことができます。

ところが、実際に住んでみて大きな落差も感じました。美しい公園と高速道路の汚れた橋げたが隣り合わせにあったり、緑の全くない工場地帯に突然マンションがそびえたり。東京でも経験したことのない殺伐とした印象に驚かされることも少なくありません。

東京は、公害など都市の様々な病理現象を含む街として認識されていたせいか、さほど落胆することもありませんでした。むしろ、長い間の都市整備の成果か、広大に残されている緑、それぞれの雰囲気をもった小じんまりとした街並みなどに感心したこともあります。そういう点で横浜は、イメージ先行の街と言えるのかもしれない。

「ヨコハマ」という先行したイメージに追いつこうとして街づくりを急ぎ、それにとり残された所がまた「ヨコハマ」から離れてしまうというごちなさが感じられはしないでしょうか。

イメージの街「ヨコハマ」から、人々が自由に生き生きと息づく明るい都市、本当の「横浜」へ。今度は、人々の生活を足もとからしっかりと固めてゆく時であるかもしれません。

「共有」のはじまり

企画財政局 三好弘人

この秋、僕たちの小さな山荘が完成した。実際の建築は大工さんをお願いしたが、土地の開墾、道路作りや基本的な設計はみんなで行ったため、一年と少しの期間が必要だった。

さて、ささやかだが土地と建物は今後六人の共有となる。この共有について、何人かの知人から忠告を頂いた。共有ゆえに将来起こり得るトラブルへの懸念であり、自分ならやらないという意味だったと思う。

僕たちはそんな不安を一掃して今回の件に臨んだ、と言っていたのだが、実は全く考えていなかったのである。障害は建築費だけだった。ただ面白そうなことをやろうとしただけなのだ。六人は、勤め先も年齢もバラバラだし、仕事の内容・収入に

いたってはほとんど知らない。要するに、単なる遊び仲間である。今回のことも、あくまでも遊びの延長線上にあり、結果的に不動産の共有が残り、それを受け入れたのである。

ただ、余暇の領域ではあるが将来に渡るルールを六人で共有することになった。これまでのパートタイム、パートセクションの、いわゆる都会的な付き合いが、生活の一部を共同化するいわゆるムラ的な付き合いを取り込むことになった。

今後のことはさておき、今一つだけ言えるのは、都会的な付き合いがあったから、こんなムラ志向なことができたと思うことである。たとえば、市役所の友

△あとがき▽

今回は地域小売商業に重点を置いて、横浜の商業の問題を考えてみました。

現在、商店街は前面に消費者ニーズの個性化・多様化の波、背後に生産者サイドからの産業流通革命の波、右にスーパーやコンビニエンスストアなど新業態の波、左に高度情報化の波を

人とどつたら話しを進めたか、微妙なところである。このムラ社会に、もう一つのムラ的なものは似合わないと思うから。とにかく、ことは始まってしまった。面白シーンをどこまで拡大・延長できるか、楽しみと戸惑いを共有できるぜいたくを享受しているこの冬である。

【調査季報】は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。都市科学研究室まで（電話六七一一二〇二九）。

この「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。七〇〇字以内。

受け厳しい状況にあります。

しかし一方、市内でも商業の異業種間交流グループの活動やパソコン利用で成果をあげる商店など新しい動きもあります。

都市の基盤施設であり顔でもある商店街の活性化は、都市の活性化に不可欠です。行政も、より知恵を出し商業の振興に努めるべき時ではないか。（長尾）